



「国際センターだより」では、土木学会の国際活動の一端を紹介しています。国際センターが毎月発行している「国際センター通信」と合わせてぜひご一読ください。

News Pick Up !!

信濃川・大河津分水における温故知新 長岡ツアー

国際センター台湾グループおよび情報グループでは、若手技術者・研究者の技術交流の促進とプラットフォーム形成を目指し、従来の日台ジョイントシンポジウムをベースに活動の拡充をはかっている。第8回アジア土木技術国際会議(CECAR8、4月16～19日 於東京・ホテルメトロポリタン池袋)の機会を捉え、4月19日、台湾から技術者・研究者を招へいし、日本の治水事業の発展に大きく貢献した信濃川大河津分水路、そして、改修工事の進む信濃川下流改修工事現場を視察した。台湾で今なお語り継がれる烏山頭ダム建設に尽力した青山士が、補修工事の指導に当たったのが大河津分水路である。国・地域の枠を超えて「人」のために尽力した土木技術者を思い出し、そして約90年前に行われた当時の技術と現代の技術の融合と比較を考えるツアーとなった。参加した若手技術者・研究者は、先人の挑戦に立ち向かう心意気と創意工夫、これから実際のプロジェクトに携わっていく自分たちの土木技術者としての役割と責任を感じていた。なお、このツアーの実施に当たり、北陸地方整備局信濃川河川事務所、大河津分水資料館友の会、新潟県長岡地域整備部、長岡技術科学大学の皆さまの多大なご助力に深く感謝を申し上げる。

第1回 JSCE-ASCE インフラレジリエンスに関する 国際シンポジウム

2019年5月22～23日、土木会館講堂にて、2018年度土木学会会長特別プロジェクトの一環として、米国土木学会(ASCE)

と共同の国際シンポジウムを開催した。

近年、特にアジア地域で多発する自然災害は大きな被害をもたらしており、その影響は人々の日常生活、そして



講演者によるパネルディスカッション

て社会全体の機能を脅かしている。それに対して、自然災害のリスクや被害の軽減、さらに速やかな復旧・復興を目指し、レジリエンスの高いインフラ計画、構築、対策について多方面で検討が始まっている。

当プロジェクトでは、ASCEとインフラレジリエンスに関する共同研究グループを立ち上げ、インフラレジリエンス概念枠組み(Infrastructure Resilience Framework)の構築と、それに基づく政策評価方法等の開発を目指すことになった。この1年間ASCEと議論を続け、今回、当シンポジウムにてその成果報告を行った。ASCE、そして国内の各分野の技術者・研究者が参集し、(1)地震・構造、(2)気候・水文・地盤リスク、(3)



シンポジウムの総括をする
小林会長

社会システムレジリエンスと経済影響、(4)ガバナンスと災害対応のセッションにて、具体的な実践例の紹介とインフラレジリエンスの概念枠組みを議論した。今後も、インフラのレジリエンス向上に向けた一般の原則と実践的な応用を目指し、議論を継続する。

Event Calendar

国際センターが企画するイベント(行事)については、以下のURLでアクセスし、「イベント情報&開催報告」をご覧ください。

<http://committees.jsce.or.jp/kokusai/>

土木学会国際センター

検索

News Pick Up !! と Event Calendar の詳細は、毎月発行の「国際センター通信」をご覧ください。

「国際センター通信」は下記の学会ホームページ(日本語版・英語版)からもアクセスできます。また、メール配信を希望される方は、国際センター事務局までメールにてお申し込みください。

※国際センター事務局 e-mail : iac-news@jsce.or.jp

■ 日本語版 HP : <http://committees.jsce.or.jp/kokusai/node/26>

■ 英語版 HP : <http://www.jsce-int.org/pub/iacnews>

■ Facebook : (日本語版) <http://www.facebook.com/JSCE.Jp/>

■ (英語版) : <https://www.facebook.com/JSCE.en>